

I

■出題のねらい

数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの内容から、式の計算、三角比、対数、場合の数について、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 解と係数の関係を利用すれば解けます。空所「ア」を -80 とした誤答が散見されました。
- (2) $AC > 0$ から、解答は1つに定まりますが、 $AC = \frac{1 \pm \sqrt{21}}{2}$ とする誤答が散見されました。
- (3) $\log_4 2 = \frac{1}{2}$ がわかっていない解答が見受けられました。
- (4) 場合の数を求める問題ですが、分数を解答しているものが多く見受けられました。問題文をよく読んで解答しましょう。

II

■出題のねらい

等比数列とベクトルについて、基本的な事項を問いました。

■採点講評

- (1) 空所「ア」の公比で計算ミスをする和后をすべて間違えてしまいます。空所「ア」を丁寧に解くことが大切です。全体的によくできていましたが、等差数列と間違えているものや、空所「ウ」で n の式になっているものがありました。
- (2) $\vec{OQ}$ はよくできていましたが、 $\vec{OR}$ はあまりできていませんでした。図を書いて、位置関係を確かめながら解きましょう。

III

■出題のねらい

三角関数および微分に関する知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) $\sin\left(\frac{\pi}{2}+a\right)=\sin\frac{\pi}{2}+\sin a$ とした解答がいくつか見受けられました。その他にも計算ミスや範囲を見落としている解答もありました。
- (2) $f'(x)$ の計算を間違えたり、 $f'(x)=0$ となる x を求めるときに $x=\frac{\pi}{6}$ を見落としている解答が見受けられました。また、 $f(0)$ や $f\left(\frac{\pi}{6}\right)$ の値を間違えている解答もありました。
- (3) 曲線 $y=f(x)$ のグラフは書けているのに、 k の条件を書く段階で間違えている解答が見受けられました。

IV

■出題のねらい

円の方程式の理解および円と直線の共有点の求め方、高次方程式の解き方について問いました。

■採点講評

全体的によくできていました。

- (1) 円の方程式に関してはほとんどの人が正答していましたが、円と直線の共有点の問題で誤答が目立ちました。この共有点は、2次方程式の重解条件から求めることができます。また、幾何的な関係から直角三角形の辺の長さを求め、直線の傾きを求めることも可能です。日頃から、さまざまな方法で問題が解けるように練習しておきましょう。
- (2) 4次方程式を2次方程式の2乗の形に変形する部分は、ほとんどの人ができていました。しかし、2次方程式の解を求めるところで計算ミスをしている人が散見されました。このような細かい所で点を落とさないように計算力を身に付けておきましょう。

V

■出題のねらい

絶対値を含む関数に対する考え方および微積分に関する基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 絶対値は常に非負であることに着目すれば簡易な問題です。しかし、 $x - 4$ や $|x - 4|$ を場合分けしたために苦戦した解答が目立ちました。
- (2) $x = 1$ のときを考えればよい問題ですが、場合分けをした解答が見受けられました。接線の求め方は理解できていました。
- (3) 交点を正しく算出できた人は少なかったです。交点が計算できた人は、面積も正しく計算できていました。

I

■出題のねらい

□1～□3は、基本的な文法や熟語を理解しているかどうかを問います。□4, □5は、前後の内容を正しく理解して、適切な表現を選ぶことができるかどうかを問うものです。□6, □7は、文脈から意味を推測し、同義語で表すことができるかどうかを問います。□8は、文脈から意味を正しく理解しているかどうかを問う問題です。

■採点講評

大問Iの中では、□5の正答率が最も高く、□1の正答率が最も低かったです。□1は“have + ～ + 原形不定詞 (toがなく動詞の原形をそのまま用いる)”「～に…させる」という語法を、□2は“have + difficulty + 動詞の原形 + -ing”「～するのに苦労する」という語法を、それぞれ知っているかどうか为正答に辿りつくポイントとなります。□6は、“polish”「～に磨きをかける」と“improve”「～を向上させる」の類似性に注目してください。大問I～IVのすべての問題の中で、この□1の正答率が最も低かったです。

II

■出題のねらい

ホームステイに関する話題を利用して、比較的易しい会話や短い手紙文の内容を正しく理解できるかを問う問題です。

■採点講評

大問IIの中では、□11の正答率が最も高く、□15の正答率が最も低かったです。□15は、本文“After dinner”におけるMrs. Pittの発言“I love Japanese food. But it'll be just you and me. My husband will be working tomorrow.”に注目できれば、正答に辿りつけるはずですが、本文では“a sock that I found behind the washing machine”と述べられているのに、選択肢④では“a sock she found under the bed”となっていますので、④は本文の内容と合うものにはなりません。大問I～IVのすべての問題の中で、この□11の正答率が最も高かったです。

III

■出題のねらい

[16], [17]は、基本的な動詞の意味を理解しているかどうかを問う問題です。[18], [19]は、全体の意味を正しく理解できているかを問う問題です。[20]は、細部の情報を把握できているかを調べる問題です。

■採点講評

大問IIIの中では、[16]の正答率が最も高く、[18]の正答率が最も低かったです。[18]は、選択肢B: Decide how much working time you have. と本文の “**How much time do you have ?**”, 選択肢C: Make a list of tasks that need doing. と本文の “**What do you have to do ?**”, 選択肢F: Sort the tasks according to urgency. と本文の “**What is important ?**”, 選択肢A: Calculate how much time each task will take. と本文の “**How much time will it take ?**”, 選択肢D: Make your plan for today. と本文の “**Do the planning**”, そして選択肢E: Reflect on your time management after finishing the day's tasks. と本文の “**Review the progress**” の関連性にそれぞれ気づくことができれば、正答に辿りつくことができます。また, “reflect on~” 「~をよく考える」, “review” 「~をよく調べる」, “see” 「~を見直す」, “check” 「~を再検討する」の意味にも注意しましょう。[20]は、本文の “The log should at least consist of the date, type of activity, start time, and duration.” の部分に着目できるかどうかポイントとなります。そして、3行目 “date” と選択肢 “August 8”, 3行目 “type of activity” と選択肢 “mailing clients”, 3行目 “start time” と選択肢 “12 : 30”, 3行目 “duration” と選択肢 “45 minutes” の関連性に気づくことができるかどうかポイントとなります。

Ⅳ

■出題のねらい

案内や地図を理解して、自分の目的に合うか、実際に可能かを検討する能力を問う問題です。

■採点講評

大問Ⅳの中では、23の正答率が最も高く、22の正答率が最も低かったです。21の正答率は50%でした。選択肢③の“take advantage of some discount coupons for museums”「博物館の割引優待券を利用する」部分が、本文“**Bus and Subway Passes and Pre-paid Cards**”内の“Kyoto Sightseeing Card”の説明の部分に書かれていることを見つけ出すことができれば、正答に辿りつくことができたはずで23～25では、“walk north”「北へ歩く」や“in front of ～”「～の前に」、 “turn right”「右に曲がる」、 “walk past ～”「～のそばを歩いて通りすぎる」などの表現が出てきます。場所や方向などを示す英語表現や、道案内などで用いられる基本的な英語表現を日頃から覚えておくようにしておくことがこのような問題の対策には欠かせないでしょう。

講評

I

出典『〈食〉の記号学－ヒトは「言葉」で食べる』（五明紀春）大修館書店ドルフィン・ボックス

菊池寛の短編小説「形」の中に登場する“猩々緋の鎧”を題材にして、コピー食品がホンモノの食品とどのような関係にあるのかを説明しています。オリジナルとイミテーションの関係構造を正確に把握することがポイントです。

問1【漢字問題】（解答番号は1～10）

正答と正答率を示しておきます。

a 瞭然(83%) b 駆使(92%) c 精巧(83%) d 畏怖(67%) g 意匠(53%)

問3【前後の文脈から適切な接続詞を選ぶ問題】（解答番号は13～15）

空欄Ⅰは前の事柄に後の事柄を付け加える働きとなります。空欄Ⅱはその前後で文脈が逆転します。空欄Ⅲの前後が原因・結果となっています。正答率は58%でした。

問4【前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は16～18）

空欄甲の前で説明されたコピー食品のつくり方の特性を把握する必要があります。正答率は78%でした。空欄乙の直前にある「形式こそ実質」がヒントです。正答率は36%でした。空欄丙の直前にある「ただ身をまかせるだけで」に注目する必要があります。正答率は53%でした。

問5【前後の文脈から適切な文を選ぶ問題】（解答番号は19）

空欄アの直前にある「影武者をしたてて敵の目をくらましたり、変装して落ちのびたりする」ことは、猩々緋の鎧と同じように戦場での振る舞いに関することで、一見共通点があるように思えることの例示です。しかし、「ちょっとちがう」という表現があることから、ここには似ているけれども異なっているという趣旨の文が入ります。正答率は61%でした。

問8【内容理解に伴う傍線部の説明問題】（解答番号は22）

①・②・④・⑤は本文に書かれていない内容が含まれています。正答率は61%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は23）

「槍の手練」は「猩々緋の鎧」という「形式」とは異なる武士の実力を示すもので「実質」に相当しますから、①が本文の内容に合致しません。正答率は47%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は24）

食品の関係構造のなかに強力な地歩を固めきっているのは、ホンモノのカニ足、ホタテ貝、カズノコ、イクラなどの「つわもの」であり、これらは「実質」です。正答率は33%でした。

問12【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は26）

ニセモノ自体が独自の創造物であるという本文の趣旨が鍵になります。②「ホンモノの存在に対抗して、ニセモノをホンモノ以上にすること」は本文にありません。③はニセモノの創造性に触れていません。④は表面的な類似性、⑤「さまざまな新しい技術を開発することになる」はニセモノの創造の意味を示しているわけではありません。

Ⅱ

出典『忘却の整理学』（外山滋比古）筑摩書房

忘却こそが思考や創造の手助けをしてくれるものであるという考えに立って、忘れることの大切さを説いた本です。わかりやすい言葉で論理的に書かれた文章ですので、容易に文意を掴めるはずです。

問1【漢字問題】（解答番号は27～36）

正答と正答率を示しておきます。

a 伯仲(14%) b 敬愛(97%) c 精進(81%) d 旺盛(78%) e 酔狂(64%)

問3【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は39・40）

空欄「甲」には、ライバルが無事にいることを意味する語が入ります。正答率は72%でした。忘却が敵と目されるのは通常のことですから、空欄「乙」に入る語は容易にわかります。正答率は78%でした。

問4【空欄補充・前後の文脈から適切な文を選ぶ】（解答番号は41）

空欄「ア」と同じ段落内で敵を持つことの必要性を説き、「汝の敵を愛せよ」とまで述べていることがヒントになります。正答率は53%でした。

問5【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は42）

空欄「ウ」の後ろにある「敵がないのはつねに危い」がヒントです。正答率は64%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は46）

傍線部Dの4行後にある「その忘却のエネルギーを～発揮されることになる」を正確に捉えることが重要です。⑤を選んでいる受験者がいましたが、「忘却の攻撃の矛先が記憶に向かってしまい」が著者の説明と違います。正答率は61%でした。

問10【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は47）

「記憶力の危機はそれにとどまらない」がヒントです。正答率は69%でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は48・49）

完答ということもあって正答率は8%にとどまりました。③、⑧を選択している受験者が多かったです。本文の第三段落に「こういう好敵手を敬愛する心の深さをもっている人は、ライバルがいなくなっても、重大な打撃を受けなくてすむであろう」とあり、ここでの「こういう」は前文の強い人を受けた言葉ですから、③は誤りです。⑧は本文の第七段落にある「好敵手でなくても、人間は、つねに敵をもっていなければならない」という文と内容的に合致しません。①・②・⑥・⑦・⑨はいずれも後半部分の説明が本文の内容と異なります。